

授業科目名	一般経済史 I (2単位) Economic History I	開講時限	秋学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	木越 義則 (大学院経済学研究科) Yoshinori KIGOSHI	office hour	質問はメールで受け付ける。
<b>授業の目的</b> この講義では、世界の経済の歴史を学ぶことによって、現代の世界経済が直面する諸課題を、学術的に分析できる基礎的能力を培う。 This course introduces the foundations of world economic history to students taking this course.			
<b>到達目標</b> 古代から現代に至る世界史を経済の動きから理解し、わかりやすい文章で説明できる。			

### 授業の構成

1	経済史学とは何か
2	計量経済史と制度の経済学
3	グローバル・ヒストリー
4	ヨーロッパ社会の形成
5	ヨーロッパの近世
6	アジアの近世
7	イギリス産業革命
8	アジアの開国と開港
9	日本の産業革命
10	帝国主義下の世界経済
11	日本帝国主義と東アジア
12	世界恐慌と現代世界経済
13	戦後国際経済秩序
14	アジアの経済発展
15	まとめと評価

### 成績評価の方法と基準

期末レポートにより評価する。履修取り下げ制度を採用しない。  
そのため、期末レポートの提出がない場合には W 評価とする。  
経済史の諸概念と用語について理解し、適切な事例を挙げながら説明できることを合格の基準とする。

### 授業時間外学習の指示

毎回の授業後に練習問題を解き、疑問点の明確化と理解の確認を行うこと。

### 教科書・参考書

特に指定しない。参考文献は各回の授業時に提示する。

### 履修条件・関連する科目・注意事項

高校の社会科（世界史・政経）の予備知識があることが望ましいが、一般向けの世界史の概説書（新書・文庫など）を通読するのも良い。  
その他のことについては、初回の授業時に詳しく説明する。

Subject	(特殊講義) International Communication (2 単位) Special Studies (International Communication)	Semester, Date and Period of the class	秋学期 木曜日 4 時限  Fall Semester Thursday, 4 <sup>th</sup> Period
Subject selection	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	Years	3・4 年 (1~2 年も受講可)
Instructor	土井 康裕 (大学院経済学研究科) Yasuhiro DOI (Graduate School of Economics)		
Office hour	Based on an e-mail from a student, let's make an appointment.		
<b>Course Aims :</b> In this course, students will have opportunities to conduct group works. In each class, we try to form several mixed-groups of Japanese students and international students to discuss about different types of issues and topics.			
<b>Course Objectives :</b> The purpose of this course is to enhance the ability to persuade people who have different cultural backgrounds to understand and agree to your idea. The course will be taught mainly in English, but we may ask students to use Japanese or non-verbal communication for a group work.			

#### Class content

1	Introduction
2	Group Work (1)
3	Group Work (2)
4	Group Work (3)
5	Group Work (4)
6	Group Work (5)
7	Group Work (6)
8	Group Work (6)
9	Group Work (7)
10	Group Work (7)
11	Group Work (8)
12	Group Work (8)
13	Group Work (9)
14	Group Work (9)
15	Conclusion
<b>Grading Methods and Criteria:</b> Attendance and Participation (100%), especially Group Work and Presentation	
<b>Direction for preliminary study:</b> Each research field of the students. Students should do some preliminary researches about each topic given before class.	
<b>Textbooks and Reference books:</b> None	
<b>Notice to students:</b> This course is related to "Global Soft-Infrastructure Program (GSIP)" of School of Economics. It is highly recommended to join some of the group works for students who are willing to apply for the outbound program. There is no prerequisite.	

授業科目名	日本経済史（2単位） Japanese Economic History	開講時限	秋学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	木越 義則（大学院経済学研究科） Yoshinori KIGOSHI	office hour	質問はメールで受け付ける。
<b>授業の目的</b> 歴史的な視点から現代の経済社会が直面する諸問題を考える力を身につけるため、近世から現代までの日本経済の歴史を理解することを目的とする。 The aim of this course is to understand the history of Japanese economy and enhance the ability to think about today's economic problems from a historical perspective.			
<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>近世から近代の日本経済の歴史像をつかめるようになる。</li> <li>現在の日本経済の諸問題がどのようにつくられてきたのかについて、長期的視点から説明できる。</li> </ul>			

### 授業の構成

1	イントロダクション：経済史とは
2	幕末の経済と開港
3	明治維新
4	殖産興業と松方財政
5	近代産業の発達①：軽工業
6	近代産業の発達②：重工業
7	日清・日露戦争と日本経済
8	第1次世界大戦と日本経済
9	1920年代
10	昭和恐慌
11	高橋財政
12	戦時経済
13	戦後経済改革
14	経済復興
15	まとめ

### 成績評価の方法と基準

中間レポート（30%）と期末レポート（70%）で評価する。  
履修取下げ制度を採用しない。期末レポート未提出の場合は「欠席」とする。  
近世～現代の日本経済のマクロ的動向や主要な出来事を、授業や教科書・参考書などから得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。

### 授業時間外学習の指示

講義レジュメを事前に配布するので、予め目を通した上で出席すること。また、教科書の該当箇所を読み、理解を深めること。

### 教科書・参考書

教科書 三和良一・三和元 『概説日本経済史：近現代 [第4版]』東京大学出版会、2021年9月刊行予定。  
その他の参考書は講義中に適宜紹介します。

### 履修条件・関連する科目・注意事項

高校レベルの日本史の知識があることが望ましいが、未履修でも受講可能。